

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

#### 国際交流拠点「Hisao & Hiroko Taki Plaza」が完成

東工大卒業生で株式会社ぐるなび取締役会長 滝久雄氏からの寄附により、令和2年11月、学生のための国際交流拠点「Hisao & Hiroko Taki Plaza」が完成しました。Taki Plazaは「外国人学生と日本人学生がここで出会い、絆を深め、共にまだ見ぬ未来を生み出そう」のコンセプトのもと、日本人学生と留学生が共に交流できる施設です。



〈 Hisao & Hiroko Taki Plaza 〉

Student-Centeredとなる建物を目指して、Taki Plazaの活用方法を検討する学生ワークショップの開催や、フロアコンセプトを学生自身が考案するなど、学生が主体となって本施設の運用を行っています。

### ガバナンス改革関連

#### 「アドバンスメントオフィス」と「戦略的経営オフィス」の発足

令和2年4月、「アドバンスメントオフィス」(オフィス長:学長)及び「戦略的経営オフィス」(オフィス長:総括理事・副学長(Provost))を設置し、活動を開始しました。アドバンスメントオフィスでは、学長のトップセールスを組織的に展開し、大学のレピュテーション向上に向けたブランドイメージ調査を実施するとともに改善施策の立案を行います。戦略的経営オフィスにおいては、エビデンスに基づくセグメントごとのコスト分析を行い、学内の資金の流れを可視化して部局長等と共有しています。

また、両オフィスが中心となって、本学の財務状況や部局別セグメント情報に加え、企業会計に近づけた財務諸表や経営資源・経営戦略等を記載した報告書「財務レポート2020」を作成し、社会に発信しました。

### 教育改革関連

#### 「エネルギー・情報卓越教育院」を設置

令和2年度文部科学省「卓越大学院プログラム」に申請・採択を受け、本学で3つ目となる卓越教育院「エネルギー・情報卓越教育院」が設置されました。国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的に連携して、5年一貫の博士プログラムを構築しました。

本プログラムでは、エネルギーの多元的学理を極め、ビックデータサイエンスと社会構想力をもって、新しいエネルギー社会を変革・デザインする人材である「マルチスコープ・エネルギー卓越人材」の育成を目指します。

#### 学士課程英語教育強化のための「ライティングセンター」を設置

大学院での英語での講義に容易に適用できるようにするため、学士課程の英語教育強化策の一つとして、ライティングセンターを設置し、TAによる英語を含むライティングスキル上達のためのチュータリングをトライアルで開始しました。令和3年3月には、東京大学、早稲田大学と共同で、Zoomシンポジウム「チュータリングの現状と展望」を開催しました。

#### 学勢調査2020実施

大学の運営に学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査「学勢調査2020」が実施されました。本調査は2年に1度実施されており、公募により集まった学生スタッフの主導で、質問内容の検討、調査結果の集計、解析、大学への提言書作成を行っています。学生スタッフは、学生の視点でアンケート結果を読み解き、建設的な提言書を作成し、令和3年3月、学長に「学勢調査2020提言書」を提出しました。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

#### 次世代人事戦略の展開

教育・研究・社会貢献の高度化を総合的に進めるためには、本学構成員がより適材適所で活躍することが肝要となります。そのための次世代人事戦略として、月給制適用の大学教員全員に対し、新たな年俸制の俸給表を導入しました。令和3年度から行う業績評価の結果を適正に処遇に反映させることにより、モチベーションの向上を図ることを目的としています。

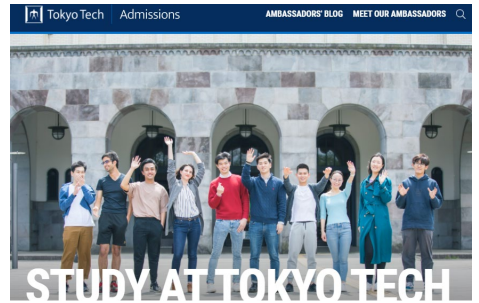
また、第3の職種として「高度専門職員」を創設し、経営参画能力を持ち非常業務への対応力のある人材や運営・経営企画・立案を行う人材を常勤職として登用できるようにしました。さらに技術職員のキャリアパスを見直し、より上位の職階として、新たに「主幹技術専門員」及び「上席技術専門員」を新設しました。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

### 「Tokyo Tech Admissions」のホームページを開設

海外から優秀な学生を受け入れるため、留学希望者向け英語ウェブサイト「Tokyo Tech Admissions」を開設しました。

本学の在学生在がStudent Ambassador(スチューデント・アンバサダー)となり、本学の学生生活等を紹介するブログを定期的に発信し、東工大に留学する魅力を伝えます。またカリキュラム情報、入試情報が入手しやすくなるよう、各情報へのインデックスを本ウェブサイトを集約しました。



〈「Tokyo Tech Admissions」トップページ〉

### 海外拠点「Tokyo Tech ANNEX」におけるオンラインイベント開催

Tokyo Tech ANNEX Bangkokでは、「Research Showcase」を令和2年9月(前年度からの延期分)と令和3年3月に開催し、タイの大学や企業等からの幅広い参加者に向けて本学の研究を紹介しました。

Tokyo Tech ANNEX Aachenでは、「Joint Workshop」を令和2年11月から令和3年2月にかけて6回に分けて開催し、日独の研究者が研究内容の発表を行った後、今後の共同研究の可能性について議論しました。

## 【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

### ジョージア工科大との集中授業をオンラインで実施

令和2年6月9日から19日にかけて、協定校であるジョージア工科大学の教員が教える「グローバルリーダーシップ実践-Global Leadership Practice」集中授業を、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで開催しました。アトランタと東京をオンラインで結んだリアルタイムの双方向型授業には、18名の学生が参加しました。半分が留学生から成る国際色豊かな履修生は、グループワーク、ディスカッションを中心に積極的な交流を展開することができました。



### ウインタープログラム「Bringing Ideas in Remote Discussion: BIRD」をオンラインで開催

令和3年2月12日～22日、ウインタープログラムBIRDを開催しました。例年は本学協定校のメルボルン大学をはじめオセアニア地域周辺大学からの留学生を本学研究室に10週間受け入れる研究センター型プログラムでしたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、遠隔交流プログラムの形で実施しました。東工大生11名とメルボルン大生9名が参加し、共通テーマの「公衆衛生」について、4グループに分かれて議論し、成果を発表しました。

### 東工大生とマサチューセッツ工科大学生がオンラインで語学タンドム

米国マサチューセッツ工科大学ジャパンプログラム(MITジャパン)と共同で、双方の学生がペアを組んで日本語と英語を学び合う国際交流プログラム「語学タンドム」をオンラインで開催しました。令和2年6月から7月にかけて約1か月間行い、東工大生17名とMITジャパンより18名の計35名が参加しました。

## ■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

### 新型コロナウイルス感染症への対策

「新型コロナウイルス感染症対策本部」において、教育・研究業務の運営等についての対応方針を策定し、これに基づき、教職員・学生が感染拡大に最大限配慮しながらオンラインも活用することで、修学と教育・研究活動を持続することができました。

特に学生に対しては、コロナ禍による経済的負担から修学を諦めることがないように本学独自の奨学金を新設するとともに、授業料納付期限の延長や在学期間延長中の授業料免除、「新入生Welcome相談窓口」の開設や大学院学生の論文審査日程の柔軟化など、学生に寄り添ったサポートの提供を心掛けました。

また研究面では、ポストコロナを見据えて産業界と共に社会を元気にさせるため「社会再起動技術推進事業」を立ち上げ、保有する特許131件を一定期間無償で開放したほか、ウィズ・コロナのニューノーマル時代に向けた本学の研究テーマをネット上でわかりやすく解説する「ニューノーマルリサーチマップ」を公開しました。

### 田町キャンパス土地活用事業

東京工業大学 田町キャンパスは、JR山手線田町駅前にある都心のキャンパスです。「田町キャンパス土地活用事業」は、田町キャンパス(事業敷地)に位置する附属科学技術高等学校を大岡山キャンパスに移転することを前提に、事業敷地に対して定期借地権を設定し、借地権者となった事業者が一体的な開発を行い、貸付期間にわたり管理運営を行う事業です。令和2年12月に事業予定者を選定し、令和3年3月、本学・事業者共同のオンライン記者会見を行いました。

田町キャンパスが位置する品川駅-田町駅周辺地域では、羽田空港の国際化、羽田空港アクセス線の計画、高輪ゲートウェイ駅の開業及びびりニア中央新幹線の開通などにより、大きく生まれ変わろうとしています。田町キャンパス再開発も周辺のまちづくりと一体となって取り組みます。